

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第32週 (8/8-8/14) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		32週	31週	30週	29週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	15	18	18	18
	眼科	3	5	5	5
	インフルエンザ*	22	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	8/8-8/14	8/1-8/7	7/25-7/31	7/18-7/24	8/1-8/7
			32週	31週	30週	29週	31週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.07	6 0.33	4 0.22	1 0.06	34 0.25
	咽頭結膜熱		2 0.13	3 0.17	6 0.33	1 0.06	47 0.35
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19 1.27	37 2.06	37 2.06	44 2.44	344 2.55
	感染性胃腸炎		36 2.40	61 3.39	72 4.00	78 4.33	388 2.87
	水痘		4 0.27	3 0.17	5 0.28	7 0.39	39 0.29
	手足口病		25 1.67	51 2.83	67 3.72	34 1.89	302 2.24
	伝染性紅斑		5 0.33	5 0.28	9 0.50	6 0.33	24 0.18
	突発性発しん		13 0.87	12 0.67	13 0.72	17 0.94	56 0.41
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	8 0.06
	ヘルパンギーナ	↓	51 3.40	80 4.44	100 5.56	77 4.28	714 5.29
	流行性耳下腺炎	○	7 0.47	8 0.44	22 1.22	6 0.33	110 0.81
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 1.00	7 1.40	6 1.20	5 1.00	28 0.80
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	12 1.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	画像診断	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及び ベロ毒素の確認
結核	女性	70歳代	病原体の検出				

・第32週は、結核3件(160)、腸管出血性大腸菌感染症1件(7)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(22)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第32週のコメント

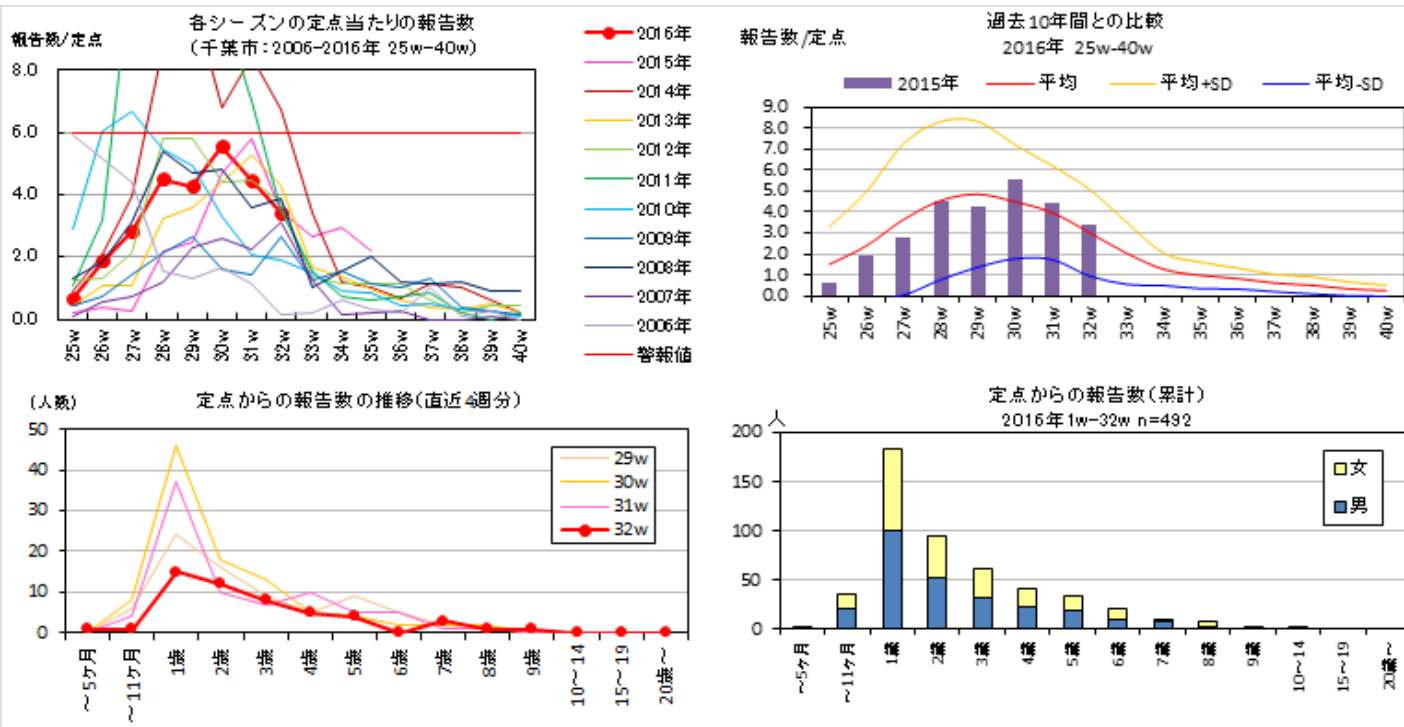
<ヘルパンギーナ> 前週から減少し3.44となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均並み。

<流行性耳下腺炎> 前週から増加し0.47となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

トピック

<ヘルパンギーナ>

全国レベルの第31週は過去9年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では、山形県、新潟県、栃木県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第32週は前週より減少し3.44となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、若葉区(10.0/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回り最多となっている他、緑区(6.67/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。若葉区で2歳、緑区で1歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第32週までの累積報告数(n=492)によると、性別では男性が54.3%(267名)、女性が45.7%(225名)で、年齢階級別では1歳(37.4%:184名)、2歳(19.1%:94名)、3歳(12.6%:62名)の順に多くなっています。



<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第31週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、新潟県、鹿児島県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第32週は前週より増加し0.47となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は稲毛区及び緑区(共に1.0/定点)で最多で、稲毛区で6歳及び9歳、緑区で3歳、4歳及び6歳で発生報告がありました。2016年第1週から第32週までの累積報告数(n=321)によると、性別では男性が57.6%(185名)、女性が42.4%(136名)で、年齢階級別では5歳(15.6%:50名)、6歳(13.7%:44名)、4歳(11.5%:37名)の順に多くなっています。

